Ｈ２１年２月２４日

さくしん

下氷鉋小学校

（校長室だより１０）

校長　大内　徹

三寒四温の日々が続いております。３学期も残すところわずかとなりました。「今年は雪が少なくて助かるね」などと言っていると、その声が天まで届くのか、空は雪を降らせてくれます。猛威をふるったインフルエンザもだいぶ下火になって参りましたが、まだ油断は禁物です。うがい、換気、加湿など可能な予防措置をしっかりと講じていきたいものです。庭先のオオイヌノフグリも可愛らしい水色の花を咲かせています。春はすぐそこまでやって来ております。

先日の朝、昇降口に入ろうとすると、三年生か、四年生のＡ君が歩み寄ってきて、「先生、そこの車にボールをぶつけてしまいました」と大変すまなそうな表情を顔に浮かべて、私に言いました。事情を聞いてみると、サッカーボールを蹴っていたら、それが職員の車に当たってしまったようでした。どんな状況かと現場を確かめてみましたが、車には何の傷もついておりません。「何ともないから大丈夫だよ。それにしても、正直だねえ」と言うと、Ａ君は安心したように舎内に入って行きました。あとから、車の持ち主の矢口先生にも確かめていただきましたが、「どこもへこんでもいないし、大丈夫ですよ」ということでした。駐車場等での出入りの際に、他車にちょっと触れて傷をつけても、そのまま立ち去ってしまう大人すらいる世の中だけに、このＡ君の正直さに私は大変心を打たれました。この子にとっては、車が傷ついた云々より、ボールを当ててしまったということ自体が問題であり、申し訳ない気持ちが働いたのだろうなと察しました。Ａ君は自分からその事実を私に申し出たことにより、心の中もきっとすっきりしたのだろうなとも思いました。同時にＡ君のような偽りのない正直な心はどこで、どのように育まれてきているのだろうかなと考えさせられました。この朝の出来事を私が事務室で話していると、事務の矢口先生が、まだ、他にこんな嬉しいこともありましたよと話してくれました。

その前日、清掃の時間に矢口先生が灯油のポリタンクを二つ両手に持って運んでいると、六年生のＢ君が、後ろから来て、「先生、お持ちしましょう」と声をかけて、ポリタンクを一つ運んでくれたのだそうです。「男の子にこんなに優しい言葉をかけられたことが今まであったかなあ・・・？」なんて話されていました。ちょっとした一言や行為ですが、実にさわやかでいいものですね。心の根っこが育ってくると、いろいろな場面でこのような言葉や行為が自然に出てくるのだろうと思います。

さて、少々固い話題になりますが、平成２３年度より新しい小学校学習指導要領が施行されます。今回の改訂では、言語が重視されております。読み書きだけでなく、伝える力や調べる力なども含めて「言語力」と呼んでいるようです。言語は、知的活動（論理や思考）やコミュニケーション、感性・情緒の基盤であることから、国語科だけでなく、各教科等での様々な活動を通して身につけていくべきものとしています。言語力を育むことで、心豊かな生活を楽しめるようにしようと、図書館の充実を図っている自治体もあります。やはり、言葉の力をつけるには、言葉と出会う機会を増やすに限ります。それには、読書が欠かせないということになるのでしょう。

言葉の使い方を知り、漢字や慣用句を覚える。論旨を読み取り、展開の仕方を学ぶ。文化や歴史を学び、思考力を伸ばす。想像力を磨く。これらのためには読書が最適なのでありましょう。しかし、このような言語の知識や技能にも増して、道徳性、とりわけ、互いを広く温かな心で受け入れ、互いの結びつきを大切に維持しながら、寛容な心で広くかかわっていく力が大切なのだろうと思うのです。先に挙げた言語の知識や技能などは、人と人との関わり合いの場面で用いられ、発揮されてこそ、意味があるのではないでしょうか。道徳性で思い出しましたが、中国から伝わってきた「四書五経」を出典の基盤としている本校の学級名（「真」「善」「美」「徳」「勤」「節」「操」「道」「明」「正」「和」「▯」「仁」「義」「礼」「知」「行」「温」「恭」「倹」「敬」「省」「愛」「勇」）は県内でも珍しく、その発案の背後には、個性や能力の伸張、互いに尊重しあい、信頼の心で結ばれた学級づくりという強い願いがありました。学級名の漢字一文字一文字には深い意味があります。毎朝、各学級を廻っていると、教室前の入り口に掛かっている学級札が私の目に入ってきます。その学級札に書かれた、「真」「善」「美」「徳」・・・等の徳目を意味する漢字を見る度に、私自身の欠けている道徳性の部分を指摘されているようで、また、気持ちが引き締まる思いがするのであります。県内でも特色ある学級名ですので、その学級名の意味について考えながら、私たちの生き方を振り返ったり、見つめ直したりするきっかけとすることができれば幸いであります。道徳の学習は各学年、年間３５時間位置づいておりますが、大変重要な時間と考えております。ただ、子どもの道徳性は学校の道徳の学習だけで培われていくものでないことは言うまでもなく、学校や家庭、そして地域の全ての生活場面で養われていくべきものです。どのように我が子の道徳性を育み、高めていくかは、その子が将来どのような大人になるかを決める鍵でもあります。

昨日は、火曜日ということで、「お話タイム（読み聞かせ）」のお母さん、お父さんがおいでになり、一年と六年の学級で本の読み聞かせをして下さいました。ボランテイアとはいえ、綿密な計画に基づいて、毎回すばらしいお話を子ども達に読み聞かせていただき感謝申し上げます。この読み聞かせは、前述の子ども達の言語力を高めることにもつながっていますし、長野市の教育大綱に掲げられている、深く豊かな人間性、深い思いやりの心、清らかな情操の形成にも大いに役だっているものと確信しております。

先日２０日の校長講話はインフルエンザの予防的措置として、放送で行いました。「わたしの清掃をふりかえる」を主眼としたつもりでした。最初の５分間は全校の清掃の様子をビデオで見てもらいました。映像の一コマ一コマからも、一生懸命に取り組んでいる様子が伝わってきました。一言もしゃべらないで黙々と、床や階段のゴミやホコリを掃き集めたり、ぬれ雑巾で隅から隅までしっかり雑巾がけをしている子が多くみられました。教室を覗いてみると、しーんとしていて誰もいないのかなと思われるくらいに、静かに黙々と清掃に打ち込んでいる学級もあります。友達が脇でちょっと話してをしていても、「私は絶対にしゃべらないでやるんだ」「自分から進んできれいにするんだ」という強い気持ちが伝わってくる高学年の子どもの姿も見られます。心と体を働かせて、校舎内外の散らかりや汚れを見つけ、自分のできる限りの本気、一生懸命さを出せる子は、他のことでも頑張って自分を伸ばしていける子どもです。串だんごではありませんが、清掃も、学習も、習い事も（中学校では部活も）全て、一本の串にささった団子と同じです。端っこの団子がひからびている時には、他の団子もひからびています。この端っこの団子はおいしいけど、真ん中の団子はまずいなんてことはあり得ません。人間の営みや活動にも同様のことが言えそうです。心豊かな人間として生きる一本の道、一本の串や芯をしっかりさせてやりたいものです。学校年度の締めくくりをしっかりと行うことができれば幸いです。